

木造如来形坐像



〔指定年月日〕昭和五七年二月一日
〔種別〕有形文化財（彫刻）
〔名称〕木造如来形坐像
〔点数〕一軀
〔所有者等〕妙法寺
〔所在地等〕堀ノ内三一四八―八

木造如来形坐像

像高二七・一cm、膝張り二六cm、面長六・五cmの寄木造りの像で、白毫・肉髻珠に水晶を嵌入している。像底の墨書銘によれば、大檀那某以下数名の立願により応永四年（一三九七）、仏所式部法橋によって造られたものである。法橋については不詳である。

本像はその合掌印から日蓮宗の一塔両尊本尊中の一体が遺存したものと思われるが、造立年代は妙法寺の創建よりも古く、何時いかにして妙法寺へ伝来したかは明らかではない。

一塔両尊の釈迦・多宝像とともに堅実心合掌の坐像として造立されるので、像容から尊名を決めるのはなかなかむずかしい。通常は光背上部の宝珠や宝塔によつて区別しているが、違例もあつて決定的ではない。本像もどちらとも決しかねるので「如来形」とした。

この像は長く仁王門の楼上に安置されていたが、昭和四三年（一九六八）に京都で修復をほどこされたものである。素朴な地方作ではあるが、区内に現存する木造諸像のうち、造像銘を持つ古仏として貴重である。

【文化財所在地】

